平成30年度次世代教育推進セミナー（岐阜会場）への参加

２０１８．１２．７

瀬尾、櫻井、福田、田中琢

於：岐阜県総合教育センター

１　概要

（１）　オリエンテーション

（２）　講義「習得における『主体的・対話的で深い学び』とは～教授と活動のバランスに配慮した授業づくり～」

〈講師〉　東京大学大学院教育学研究科教授　市川伸一様

（３）　実践発表　各務原市立那加中学校

垂井町立垂井小学校

白川町立白川小学校

（４）　発表・演習「実践を通してアクティブ・ラーニングを考える」

〈担当〉　次世代教育推進センター研修協力員　織田克彦様、宮迫隆浩様、稲岡寛様

２　講義について

「習得における『主体的・対話的で深い学び』とは～教授と活動のバランスに配慮した授業づくり～」という題で、ご講演をいただいた。アクティブ・ラーニングを意識した授業を実践するうえで陥りやすいものとして、「教えずに考えさせる授業」が挙げられた。課題を配り、班で考えなどさせ、授業終わりのフォローがないというものである。重要なのはoutputを重視することではなく、基礎知識は教え、思考・表現を通して深い習得を促す（「教えて考えさせる」）ことである。メタ認知の視点から、生徒自身に自己の理解状態を把握させ、主体的な学習態度を育成することが重要だとわかった。

３　実践発表について

各務原市立那加中学校・垂井町立垂井小学校・白川町立白川小学校の実践発表があった。キーワードは「横断的」である。学年を越え、教科を越え、そして学校種の垣根を越え、協力的に実践していくことが、生徒の主体的な学びを導くために重要であると感じた。

４　発表・演習について

「実践を通してアクティブ・ラーニングを考える」ということで、非常に多岐にわたる実践からアクティブ・ラーニングについて考えた。技術革新が急速に進む昨今に、必要な人材を育てるためのノウハウを知ることができた。やはり、対話形式の型にこだわることより、学びの質を探求することが必要であると感じた。

また演習として、商店街の活性化に取り組んだ、神奈川県・戸部小学校の生徒の活動を題材に、生徒の学びのために教員ができることを班ごとに考えた。生徒の目的意識を高め自主的な活動を導くため、いかに教員の働きかけが重要かよくわかった。